

被爆
79
周年

原水爆禁止世界大会開催！！



福島

7月28日に行われた被爆79周年原水爆禁止世界大会・福島大会に参加させてもらい、様々な知識を得る事ができました。内容については主に「文明史的エネルギー大転換と日本の未来を福島から見通す」というものでした。講師である特定非営利活動法人 環境エネルギー政策研究所 所長の飯田哲也さんの講演では、この先再生可能エネルギーに頼っていく中で、重要になってくるのは太陽光、風力発電という話がありました。ただ、海外と比べ、日本の伸び率は良くないという話もありました。この先、原子力に頼らず発電に困らない様になるには様々な工夫、技術が大切になってくるのかなと思いました。「女川や柏崎刈羽原発の再稼働を許さない」という報告もあり、県民による行動、デモ行進、署名活動などを聞き、原発は再稼働してはいけないものだとも再認識しました。原水禁は初めてというのもあり、全く知識の無い状態で参加しましたが、エネルギーの大転換というものにも興味を持つことができ、さらに知見を広げてみたいと思える有意義な大会でした。

東北地方 小名浜支部 猪狩慎悟



広島



8月4日～6日に被爆79周年原水爆禁止世界大会・広島大会に参加しました。猛暑の中、折鶴平和行進・開会総会に約2,200人が参加して開催されました。来年は80周年を迎え、その後20年で100周年を迎えます。核廃絶の実現のために、今から具体的目標を立て、基本的構想を構築するための提案があり、「No First Use」をともに取り組むことの参加者への呼びかけがありました。「No First Use」とは核先制不使用で核兵器保有国では中国とインドが宣言しています。しかしながら、日本と核兵器保有国は核兵器禁止条約に批准せず、ロシアやイスラエルは核の脅しをおこなっています。日本は抗議の意思も示さず、アメリカとの核抑止論の強化やGX推進を理由にして原発依存に政策転換しました。「核と人類は共存できない」の実現に向け、分科会やシンポジウムで学んだことを活かし、また、被爆者の平均年齢が85歳になるなど運動の継承も含め、頑張って運動していかなければと思います。

関西地方 大阪支部
関谷和人



第0060号 2024年8月22日発行
全日本港湾労働組合 発行日：随時

核も戦争もない平和な21世紀に！

広島



長崎

2024年8月7日から9日にかけて、長崎市で開催された第79回原水禁長崎大会に参加しました。この大会は、核兵器廃絶と平和の実現を目指す重要なイベントであり、多くの参加者が集まりました。大会は「核も戦争もない平和な21世紀に」というテーマで行われ、国内外から多くの参加者が集まり、講演やパネルディスカッション、ワークショップなどが実施されました。大会期間中、私は開会式、分科会に参加しました。開会式では長崎市長や原水禁運動のリーダーたちが挨拶を行い、核兵器廃絶への強い意志が示されました。分科会では、平和教育や福島原発のデータや現状、メディアの裏側について説明がありました。また、若者が平和運動において重要な役割を果たしていることを再認識しました。大会に参加して、核兵器廃絶の重要性やその実現に向けた課題について深く理解することができ、国際的な連帯の重要性を実感しました。また、異なる背景を持つ人々との意見交換を通じて新たな視点を得ることができました。若者が平和運動に積極的に参加し、未来を築くための重要な役割を果たしていることも強く感じました。今回の大会参加を通じて、核兵器廃絶と平和の実現に向けた意識が一層高まりました。今後もこの経験を活かし、平和運動に積極的に参加していきたいと考えています。長崎県支部、小野委員長をはじめ3日間大変お世話になりました。

九州地方 関門支部 高野 好司